

農業農村工学会論文集投稿の手引き

(平成16年9月15日改定:第189回理事会報告)	
(平成19年9月21日改正:第202回	”)
(平成20年9月25日改正:第207回	”)
(平成21年5月19日改正:第210回	”)
(平成21年9月7日改正:第211回	”)
(平成24年3月15日改正:第222回	”)
(平成25年3月14日改正:第227回	”)
(平成26年3月14日改正:第231回	”)
(平成27年3月16日改正:第236回	”)
(平成27年12月15日改正:第239回	”)
(2020年3月16日改正:第258回	”)

1. 編集の基本方針

農業農村工学会論文集（以下、論文集という）は、農業農村工学に関する研究論文等を掲載するもので、全編投稿原稿である。なお、原稿は広く読まれる学術雑誌等に未発表であり、他雑誌に二重投稿していないこと。

2. 投稿資格

著者は、下記の①または②の条件を満たさなければならない。

- ① 著者に論文集購読者が1名以上いること。
- ② 第一著者が会員であること。

3. 投稿先

農業農村工学会論文集企画・編集委員会。
原稿の投稿は、電子投稿に限る。投稿の際には、本学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/ronbun/>）から電子投稿の専用画面を開き、画面上に記された指示に従って投稿手続きを行うこと。

4. 原稿の受付と投稿原稿の取扱い

農業農村工学会論文集企画・編集委員会（以下、企画・編集委員会という）は、原稿を随時受付ける。
企画・編集委員会は体裁上最小限必要とされる条件が満たされた原稿を確認した日付を受付日として受け付け、整理番号が電子投稿システムより発信される。なお、原稿が体裁上最小限必要とされる条件を満たしているかどうかを受付前にチェックし、場合によっては原稿の返送、もしくは著者への問合せを行う。また、著者からの問合せの

際は、この整理番号によって対応する。

受け付けられた原稿に対し、企画・編集委員会は審査を行って論文集掲載の適否を決定する。審査に当たって、企画・編集委員会は著者に対して問合せ、または原稿の修正を求めることがある。原稿の修正を著者に依頼した場合は、返稿後3カ月以内に再提出されないときは、新規投稿扱いとする。

5. 投稿の種類と内容

投稿原稿の区分は、次の5種とする。誌上討議を除き、それぞれの原稿は表題、和文要旨、本文、英文Abstractから構成される。ただし、英文で作成された場合、和文要旨は省略する。また、研究ノートの和文要旨はキーワードのみとし、英文Abstractは省略する。

5.1 研究論文

1編ごとに研究論文としての体裁を整え、新たな研究成果または技術に関するものであり、農業農村工学に関する研究および技術の向上に寄与するとみなされるもの。

ページ数は、組上がり6ページ以内とする。ただし、別に定める超過ページ料を著者が負担することを条件に、組上がり30ページを限度として超過を認める。

5.2 研究報文

1編ごとに研究報文としての体裁を整え、研究成果または技術の応用を主とするものであり、農業農村工学に関する研究および技術の発展や現場・社会への普及に有益なもの。

ページ数は、組上がり6ページ以内とす

る。ただし、別に定める超過ページ料を著者が負担することを条件に、組上がり30ページを限度として超過を認める。

5.3 研究展望

農業農村工学における特定の専門的課題の研究の動向を展望するもので、研究の歴史的な流れ、現状、大きな成果、および残された問題点などができる限りわかりやすく記述されているもの。ただし、研究成果の総花的紹介や文献解題でなく、重要な成果を整理評価し、体系的に現状総括するところに著者の独創性がみられるもの。

ページ数は、組上がり6ページ以内とする。ただし、別に定める超過ページ料を著者が負担することを条件に、組上がり30ページを限度として超過を認める。

5.4 研究ノート

研究・技術の新しい成果および知見の速報で、農業農村工学に関する研究および技術の向上・発展に寄与するとみなされるもの。

ページ数は組上がり2~4ページとし、超過は認めない。

5.5 誌上討議

論文集に掲載された内容に対する誌上討議。

質疑・応答とも原則として、公開後6カ月以内に研究論文・研究報文・研究展望については4,000字（組上がり2ページ相当）以内、研究ノートについては1,000字（同1/2ページ相当）以内とする。

6. 初回の投稿方法

6.1 必要なファイル

① 投稿原稿

投稿原稿は、「9. 投稿原稿の書き方」に示された体裁に従って作成された和文または英文であること。

なお、氏名および所属機関名（和文・英文とも）を記載し、図・表・写真については、カラーで作成してもよい。

また、審査の効率化を図るため、本文には10行ごとに行数をつけること。

6.2 投稿手順

電子投稿システムを利用して投稿する。電

子投稿の手順は次のとおり。

- ① <https://www.jsidre.or.jp/ronbun/>へアクセス
- ② 電子投稿へのログイン
- ③ ユーザーIDの登録
- ④ 投稿原稿の区分の選択
- ⑤ 表題（日・英）の入力
- ⑥ 共著者の入力
- ⑦ 内容紹介（抄録、日（300字以内）・英）の入力
- ⑧ キーワード（日・英）の入力
- ⑨ 希望審査分野の選択
- ⑩ 追加投稿情報（会員番号、コレスポンドイングオーサー等）の入力
- ⑪ 事務局あてコメントの入力（任意）
- ⑫ 推薦査読者の入力（任意）
- ⑬ 投稿原稿のアップロード
- ⑭ 自動作成されたPDF原稿の確認
- ⑮ 投稿原稿を事務局に送信
- ⑯ 整理番号および投稿確認メールの受信

7. 審査

7.1 査読の目的と姿勢

企画・編集委員会は、投稿原稿が論文集に掲載されるにふさわしい内容のものであるかどうかを判定するために査読を行う。査読を行うに当たっては次の点について特に配慮するものとする。

- ① 内容に対しては著者が責任を負うべきものであり、その価値は読者が判断するものである。
- ② 査読では内容の批判や討議を行うものではなく、見解の相違は不採用の理由とはならない。内容に対して疑問または異論を持つ場合は、論文集誌上で質疑または討議されるべきであり、これによって研究の進歩がなされるものである。
- ③ 査読者は、著者に対して研究指導する立場にない。よって、投稿された原稿に対して、新たな実験や計算の追加要求は極力避ける。
- ④ 投稿された研究成果ができるだけ早く会員に公表されるよう、査読期間を遵守する。

7.2 査読方法

電子査読システムにより行う。

企画・編集委員会は、投稿原稿の内容から適切と判断されるその分野の専門家2名に査読を依頼する。

個々の原稿についての査読者名は公表しない。また、著者との折衝はすべて企画・編集委員会が行い、査読者が直接、著者と折衝しない。

査読の際の全般的意見および個別指摘事項は、様式を学会ホームページ

(<https://www.editorialmanager.com/jsidre/default2.aspx>)よりダウンロードし、添付ファイルとしてアップロードする。

7.3 査読項目

査読に際しては、以下の項目について客観的に判定する。

7.3.1 表題

表題については、以下の事項に照らして適否を判定する。

- ① 本文の内容の概略を表している。
- ② 簡略である。
- ③ 類似した他の論文等と区別することができる。
- ④ 連載形式であるような表現になっていない。

7.3.2 本文

「5. 投稿の種類と内容」にあげた内容に合致するかを判定するとともに、完成度・信頼性を判定する。

研究論文においては主に新規性について、また研究報文においては主に有益性について評価する。新規性・有益性とは、それぞれ次に示す(1)および(2)の内容であり、いずれかの事項に該当すれば新規性あるいは有益性があると判定される。

完成度・信頼性とは、それぞれ次に示す(3)および(4)に記した条件が備わっていることを意味する。

(1) 新規性

- ① 何人も公表していない新しい知見と見解を提示している。
- ② 既往の知見・手法であっても、新しい解釈あるいは新しい理論を組立てている。
- ③ 困難な研究・技術的検討がなされた貴重な成果が含まれている。
- ④ 現象の解明に貢献している。
- ⑤ 主題、内容、手法に独創性がある。
- ⑥ 学会、社会に重要な問題を提起している。
- ⑦ 創意工夫に満ちた計画・設計・工事等の

技術的検討、経験が提示されている。

(2) 有益性

- ① 研究・技術の成果の応用性、有益性、発展性が認められる。
- ② 研究・技術の体系化をはかり、将来の展望を与えている。
- ③ 今後の実験、調査、計画、設計、工事などに取り入れられる価値がある。
- ④ 問題の提起、試論、またはそれに対する意見として有用である。
- ⑤ 特色ある実験・実測のデータ、新しい数表、図表を提示し、応用性がある。

(3) 完成度

- ① 全体の構成が適切であり、目的と結論が明確である。
- ② 既往の研究・技術との関連が明確である。
- ③ 文章表現が適切である。
- ④ 図・表が分かりやすい。

(4) 信頼性

- ① 過去の研究が適切に引用され、公平に評価されている。
- ② 実験や解析の条件が明確に記述されている。

7.3.3 和文要旨・英文Abstract

本文の内容と結論が簡潔に要約されており、文字数またはword数が適切であり、かつ本文中の新しい情報が言及されているかを判定する。

また、和文要旨・英文Abstractは、それぞれが独立して取り扱われることがあるため、以下の点についても判定する。

- ① 一般的でない略記法、記号、術語は、和文要旨・英文Abstractの中で定義されている。
- ② 本文中の節、式、図、表などを1.1節、式(12)、**Fig. 3**、**Table 2**のように引用していない。
- ③ 原則として、文献の引用が避けられている。

7.3.4 キーワード

以下の観点からキーワードが選ばれているかを判定する。

- ① 本文の内容と特徴を推測できる。
- ② 文献検索する上で有効である。

- ③ 専門用語として定着している。

7.3.5 SI 単位

SI 単位の表記が適切になされているかを判定する。

7.4 判定

論文集掲載の適否の判定は、査読結果に基づいて企画・編集委員会が行う。その際に企画・編集委員会は、著者に対して原稿の再検討・修正を求めること、および修正原稿に対して査読者に再査読を依頼することがある。

審査結果の判定内容を以下に示す。

「A」 まったく修正の要なし

「B」 別記の点の修正を要するが、再査読の要なし

「C」 別記の点の修正を要し、再査読の要あり

「D」 掲載不相当

「Z」 体裁不備

以下に示す項目は、企画・編集委員会「掲載不相当（D判定）」と判断する際の基準としているものである。

- ① 明らかに既発表とみなされる。
- ② 二重投稿であるとみなされる。
- ③ 実験、調査、解析などの大幅な追加、あるいは原稿の大幅な改訂が必要である。
- ④ 原稿の根幹に重大な誤りがある。
- ⑤ 理論的、または実証的な、あるいは事実に基づいた内容ではなく、単なる主観が述べられているにすぎない。
- ⑥ 通説が述べられているだけで、新しい知見がまったくない。
- ⑦ 修正を要する根本的な指摘事項をあまりに多く含んでいる。
- ⑧ 明らかに研究等が公表する段階にまで進展していない。
- ⑨ きわめて偏った先入観にとらわれ、原稿全体が独断的に記述されている。
- ⑩ 現象の解明に当たり、明らかに不適当な理論を当てはめて構成されている。
- ⑪ 連載形式で構成されており、独立したものと認めがたい。
- ⑫ 他人の研究成果をあたかも本人の成果のごとく記述して原稿の基本が構成されている。
- ⑬ 著しく商業主義に偏っている。

8. 修正投稿の方法

8.1 必要なファイル

① 修正投稿原稿

修正投稿原稿は、「9. 投稿原稿の書き方」に示された体裁に従って作成された和文または英文であること。

なお、氏名および所属機関名（和文・英文とも）を記載し、図・表・写真については、カラーで作成してもよい。

また、審査の効率化を図るため、本文には10行ごとに行数をつけること。

② 査読者および企画・編集委員会の指摘事項に対する回答書

審査結果が「B」または「C」判定の場合は、査読者および企画・編集委員会の指摘事項に対する回答書を添付すること。

8.2 投稿手順

電子投稿システムを利用して投稿する。提出期限は原則として1カ月以内とする。なお、特別な理由によりこれを延長する場合には、企画・編集委員会（16. 問合せ先）の了解を得た上で、最大3カ月まで延長することができる。

電子投稿の手順は次のとおり。

- ① <https://www.jsidre.or.jp/ronbun/>へアクセス
- ② 電子投稿へのログイン
- ③ 投稿原稿の区分の確認
- ④ 表題（日・英）の確認・修正
- ⑤ 共著者の確認・修正
- ⑥ 内容紹介（抄録，日（300字以内）・英）の確認・修正
- ⑦ キーワード（日・英）の確認・修正
- ⑧ 希望審査分野の確認
- ⑨ 追加投稿情報（会員番号，コレスポンディングオーサー等）の確認
- ⑩ 事務局あてコメントの入力（任意）
- ⑪ 推薦査読者の確認
- ⑫ 修正投稿原稿，査読者および企画・編集委員会の指摘事項に対する回答書のアップロード
- ⑬ 自動作成されたPDF原稿の確認
- ⑭ 修正投稿原稿を事務局に送信
- ⑮ 投稿確認メールの受信

9. 投稿原稿の書き方

原稿の書式および書き方は、原則としてSIST（科学技術情報流通技術基準）に準拠する。

審査原稿作成用テンプレート（学会ホー

ムページ

(https://www.jsidre.or.jp/how_to_post/) よりダウンロードする) で作成したものが望ましい。

9.1 原稿の構成

投稿原稿の構成は、次のとおりとする。

① 表題

表題、氏名、所属機関名、同住所、コレスポンディングオーサー。なお、表題には連載を示唆する「… (I)」や「… (第1報)」などの表記は避けること。また、コレスポンディングオーサーは、所属機関名、同住所の次の行に、*Correspondence*: 学会太郎, e-mail:gakkaitaro@jsidre.or.jpのように記述する。

② 和文要旨

1行全角50文字程度、7行以内で書かれたもの。なお、文末に1行改行して、「**キーワード:**」と記し、日本語のキーワード5~7語を、2行以内で記す。

③ 本文

本文には、図表 (写真は図に含む、カラー可)、式、脚注、付録、引用文献を含む。

④ 英文Abstract

英文Abstractには、英文表題 (副題を含む)、ローマ字表記の氏名、および英語表記の所属機関名、同住所を含む。Abstract本文は、250words程度、12行以内とする。なお、文末に改行して「**Key words:**」と記し、日本語のキーワードの順序に対応させて、英語のキーワードを記載する。

9.2 原稿執筆上の留意点

原稿執筆に当たっては、次の点に留意すること。

① 句読点は、「,」「.」とする。

② 章・節・項の見出しを下記のようにする。

章	1.	2.	3.	…
節	1.1	1.2	1.3	…
項	1.1.1	1.1.2	…	

③ 仮名づかいは、現代仮名づかいとする。

④ 術語は、農業農村工学標準用語事典に準ずる。

⑤ 日本人の姓名のローマ字表記に際しては、姓のすべての文字と名の頭文字を大文字で記すこと。また、表記の順序は、姓-名の順が望ましい。

⑥ 文字、記号、単位記号は慣用的なものを

使用し、必要に応じて記号の一覧表を付録として付ける。式を書く場合は、記号が最初に現れる場所で記号の定義を文章で行う。

⑦ 数字は、アラビア数字 (3桁ごとにカンマを入れる) とする。

⑧ 単位は、国際単位系 (SI) によるものとする。

⑨ 数式は全角1字下げて記載し、式番号は丸かっこ書きで段の右に寄せる。式番号との間にはリーダーをつけない。

⑩ 掛算記号には、「×」を使用し、「*」やアルファベットの「X」や「x」は用いない。また、指数表示は、 $4 \cdot 10^2$ ではなく 4×10^2 とする。

⑪ 図・表はそれぞれ、**Fig. 1**、**Table 1**のように通し番号を付けて表記する。なお、写真は図として取り扱う。

⑫ 図、表のタイトルおよび主要な説明文については、原則として、和文と英文を併記する。

⑬ 図表は天か地にまとめてレイアウトし、横には本文を組み込まない。

⑭ 数表とそれをグラフにしたものとの併載は避け、どちらか一つとする。

⑮ 地名、人名、その他で特別の読み方をするものにはフリガナを付す。

9.3 写真の取扱い

写真は、分解能の高いビットマップイメージ (300dpi程度、カラー可) を本文に挿入する。

9.4 文献引用の書き方

文献を引用する際は、以下の例に示すように記述する。なお、同じ著者が同一年に発表した異なる文献を引用する場合には、発行年の後にa, b, c, …を付す。著者が複数にわたる場合には、3名以上の場合に限り、第一著者のみを記し、残りの著者については和文の場合には「ら」、英文の場合には“et al.”として省略してよい。

例1: 山田・田中 (1996) によれば…

例2: …と報告している (山田ら, 1997)。

例3: …と述べている (田中, 1990a)。

例4: …と述べている (田中, 1990a; 山田, 1992)。

9.5 引用文献リストの書き方

引用文献リストは、和文・英文の文献を混

在させて文末にまとめ、筆頭者の姓のアルファベット順に記載する。

論文等の場合は、「著者名（発行年）：表題（副題を含む）、雑誌名、掲載巻（号）、引用箇所記載ページ。」と記す。単ページは、例えば、p. 20と記し、複数ページの場合は、例えば、67-68と記す。なお、英文雑誌の場合は、著者名は姓、名のイニシャルの順とし、雑誌名はイタリック体で記す。また、行末にピリオドを付けること。

書籍の場合は、「著者名（発行年）：書籍名、出版社、引用箇所記載ページ。」と記す。

英文書籍の場合は、書籍名は各単語の頭文字を大文字とし、イタリック体で記す。

Webサイトの場合は、「著者名（参照日付）：Webページの題名、Webサイトの名称（著者と同じ場合は省略してもよい）、媒体表示、入手先」と記す。

また、著者の数が多くても、引用文献リストには著者全員の名前を記載する。

① 和文雑誌からの引用例

東京太郎，大阪次郎（1990）：土地改良とパイプライン，農土誌，**43**（1），1-5.

② 和文書籍からの引用例

横浜次郎（1991）：換地と都市計画，農業土木学会，105-120.

③ 英文雑誌からの引用例

Kincaid, D.C., Heerman, D.F. and Kruse, E.G. (1972) : Hydrodynamics of border irrigation advance, *Trans. of the ASAE*, **15**(4), 67-68.

④ 英文書籍からの引用例

Henry, J.G. and Heinke, G.W. (1989) : *Environmental Science and Engineering*, Prentice-Hall International, p.20.

⑤ Webサイトからの引用例

論文集企画・編集委員会（参照2012.7.18）：投稿の手引き，農業農村工学会，（オンライン），入手先<<https://www.jsidre.or.jp>>

9.6 脚注および付録

脚注は、できるだけ避けることが望ましい。やむを得ず脚注を使用する時は、本文該当箇所右上に*1, *2, …の記号を明示し、各ページの最下段に簡単・明瞭な文章で記す。ただし、説明が長くなる場合、あるいは本文の流れと直接関係ない場合には（記号の一覧表など）、付録として本文末尾に置くこと。

9.7 和文要旨・英文Abstract に関する注意

和文要旨・英文Abstractは、それぞれが独立して取り扱われることがあるため、以下の点に注意すること。

- ① 一般的でない略記法、記号、術語はこの中で定義しなければ使うことはできない。
- ② 本文中の節、式、図、表などを1.1節、式(12)、**Fig. 3**、**Table 2**のように引用することはできない。
- ③ 原則として、文献の引用は避ける。

9.8 キーワードに関する注意

キーワードを選ぶときには、以下のことに注意すること。特殊な用語や本文中で新たに定義した語句などは避けること。

- ① 本文の内容と特徴を推測できる。
- ② 文献検索する上で有効である。
- ③ 専門用語として定着している。

9.9 英文原稿に関する注意

英文原稿も上記に準ずること。ただし、以下の点に注意すること。

- ① 英文の適正は、著者の責任において期すること。
- ② 原稿のスタイルは、原則として審査原稿作成用テンプレート（英文）学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/how_to_post/）よりダウンロードする）で作成したものが望ましい。
- ③ 英文Abstractは文頭に置くこと。
- ④ 図表のタイトル名および説明文は、英文のみとすること。

9.10 引用等に係わる著作権に関する注意

原稿中に他論文等を引用する場合には、投稿者の責任において、事前に著作権者から了解を得ること。

10. 掲載用原稿の作成方法

投稿した原稿が「A」判定となったら、掲載用（PDF）原稿を作成し、電子メールで16.に記載された企画・編集委員会に送信する。

掲載用に提出する原稿（PDF原稿）は、掲載用原稿作成用テンプレート（学会ホームページ

（https://www.jsidre.or.jp/how_to_post/）よりダウンロードする）を使用して作成したものとす。

掲載用原稿は、数式や記号なども適切な字体で挿入してあり、鮮明な図表（写真は図に含む、カラー可）が本文中に配置されているものとする。これらの条件を満たさない原稿について、企画・編集委員会は原稿の再提出を要求することがある。

なお、著者自身が掲載用原稿を作成することが困難な場合には、学会事務局に問い合わせること。

11. 掲載された研究論文等のオープンアクセス

学会は、審査が終了し、適切な掲載用原稿が提出されたすべての研究論文等を1カ月以内に逐次JST（科学技術振興機構）が運営するJ-STAGE（科学技術情報発信・総合流通システム）に全文掲載する。

ただし、掲載後1年間は、全文を閲覧する際には、論文集購読者に配布するIDとパスワードが必要となる。なお、掲載と同時に全文公開を希望する場合は、「13.3 早期公開費用」に定める費用を著者が負担する。

また、学位取得に関する所属機関リポジトリへの掲載については、著者の責任において掲載することを予め承認することとし、学会に対して許諾の申請を必要としない。

12. 冊子体の作成

J-STAGEに掲載されたすべての研究論文等を収録した冊子体を、当分の間、年間2回作成する。冊子体は白黒印刷で作成し、J-STAGEにカラーで掲載されている場合は、そのことを表記する。

なお、冊子体もカラー印刷を希望する場合は、「13.4 冊子体のカラー印刷費用」に定める費用を著者が負担する。

13. 掲載に必要な経費等

掲載に当たって、以下に示す経費をJ-STAGE掲載後に学会からの請求により支払うこと。

13.1 掲載料

研究論文、研究報文、研究展望の場合は、掲載1編につき30,000円（税別）、研究ノートの場合は、掲載1編につき20,000円（税別）を著者が負担する。

なお、第一著者が会員で論文集を購読していない場合は5,000円（税別）を加算し、第一著者が非会員の場合は10,000円（税別）

を加算する。ただし、第一著者が学生会員の場合は加算額を免除する。

13.2 超過ページ料

「5. 投稿の種類と内容」で組上がりページ数は規定されているが、研究論文・研究報文・研究展望については組上がり1ページにつき15,000円（税別）を著者が負担することを条件にページ超過が認められる。ただし、1編30ページ（組上がり）を限度とする。

13.3 早期公開費用

「11. 掲載された研究論文等のオープンアクセス」に記載のとおり、掲載された研究論文等の早期公開を希望する場合は、1編につき4,000円（税別）を著者が負担する。

13.4 冊子体のカラー印刷費用

冊子体のカラー印刷を希望する場合は、1ページにつき92,000円（税別）を著者が負担する。

14. 別刷りの作成

別刷りの作成を希望する場合は、実費を著者の負担として作成する。

15. 掲載された論文等の著作権

論文集に掲載された論文等の著作権（著作財産権、copyright）は、農業農村工学会に帰属する。

16. 問合せ先

問合せ先は、次のとおりである。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

農業農村工学会論文集企画・編集委員会

TEL 03-3436-3418（代）

FAX 03-3435-8494

E-mail ronbun@jsidre.or.jp